

# CEATEC 2023 参加報告

小松原 純子<sup>1)</sup>・宍倉 正展<sup>1)</sup>・金子 翔平<sup>1)</sup>・荒井 晃作<sup>2)</sup>・三澤 文慶<sup>2)</sup>・  
新井 和乃<sup>2)</sup>・野々垣 進<sup>2)</sup>・長 郁夫<sup>2)</sup>・米岡 圭弥<sup>2)</sup>・中澤 努<sup>3)</sup>

CEATEC (シーテック: Combined Exhibition of Advanced Technologies) とは産業用電子機器の展示会に端を発する、IT 技術とエレクトロニクスに関する大規模な展示会です。毎年10月におこなわれており、CEATEC 2023 toward SOCIETY 5.0 (以下、CEATEC 2023) は2023年10月17日から20日までの4日間、千葉県の幕張メッセで開催されました(第1図)。幕張メッセの国際展示場の大規模な空間に、各種電子デバイス、Society 5.0 を実現するための技術、大学や国内外のスタートアップ等、計684団体の展示ブースが展開され、来場者は4日間で合計8万9千人(公式発表)と、大変多くの人で賑わっていました(第2図)。

産業技術総合研究所(産総研)は2005年からCEATECに出展しており、今回で13回目の出展となりました。産総研のブースではABC2.0、量子拠点、地質調査総合センター、サステナブルインフラ研究ラボの4つのテーマで展示がおこなわれました(第3図)。

地質調査総合センター(GSJ)がCEATECに参加するのは今回が初めてです。展示は3次元地質地盤図と海洋調査の2つのテーマについてでした。前者はパネル1枚と動画を流した大型モニタ1台と床貼りの埋没地形分布図、後者はパネル3枚とPCによるデモを用いて来場者に説明しました(第4図)。

開催期間中は多くの方がGSJの展示に立ち寄ったため、ほぼ休みなく説明などの対応をおこなうことになりました。これは産総研のブースが展示会場の入口に近く来場者が立ち寄りやすい場所であったことや、ブース内部を通り抜けられるような構造になっていたこと、また床貼りの埋没地形分布図が目を引きやすいため、好条件が重なったためと思われます。

地質の専門家以外への説明はこれまででも地質情報展などでおこなってきましたが、今回のCEATEC 2023では地質モデル作成に係る技術的な質問や、企業としてどう利用するかという視点からの質問を多くいただき、来場者層の違いを実感しました。特に、産総研ブースの中でもGSJの展示はおもむきが異なっていたようで、産総研において地質の研究はどのような位置づけなのかという質問を複数の方から受けたことは興味深かったです。

会場となった幕張メッセの国際展示場は、例年日本地球惑星科学連合(JpGU)の大会でポスターセッション会場となっている場所と同じで、会場自体にはなじみがありました。しかし展示会場はJpGUの5倍の広さがあり、(特に大企業の)ブースはきらびやかでインパクトのある派手な作りをしていて、これが同じ場所なのかと思うほどでした。

また、かつて展示会といえば各ブースに「御名刺



第1図 CEATEC 2023 会場入口。幕張メッセ国際展示場4～8ホールと国際会議場を使って開催された。



第2図 CEATEC 会場。会場全体はこの3倍程度の広さがある。中央左に産総研のブースが見える。

1) 産総研 地質調査総合センター連携推進室

2) 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

3) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：CEATEC 2023、地質地盤図、海洋調査、幕張メッセ



第3図 産総研のブース。右手前が受付、正面にサステナブルインフラ研究ラボの展示、左外側に産総研の紹介、ABC12.0、量子拠点の展示がある。GSJの展示は左側のパネルの裏側になる。



第4図 地質調査総合センターの展示。手前では東京都区部の埋没地形分布図の説明、奥のパネルの前では海洋調査データの紹介をしている。左手奥はサステナブルインフラ研究ラボの展示。

入」の箱があったものですが、CEATECでは他のブースで自分の名刺を求められることは一切ありませんでした。事前登録をすると入場証が発行され、これに2次元バーコードが表示されています。各ブースにおいてこれをスキャナで読み取ってもらうことで、ブースを訪れた人の名前・所属・連絡先のデータが得られるようになっていました。会場で訪れたブースの企業からはポツポツと営業のメールが届きつつあります。こちらもブースに来ていただいた方のデータを元に連携へ発展させることができたらと考えています。

今回のCEATEC参加については岡本辰志氏を始めとするブランディング・広報部広報室の方々に準備段階から大変

お世話になりました。大型モニタで流した地質地盤図の説明動画の使用については企画本部 AIST Solutions 室に便宜を図っていただきました。心より御礼申し上げます。ブース出展料には令和5年度GSJ戦略的課題推進費を使用しました。

KOMATSUBARA Junko, SHISHIKURA Masanobu, KANEKO Shohei, ARAI Kosaku, MISAWA Ayanori, ARAI Kazuno, NONOGAKI Susumu, CHO Ikuo, YONEOKA Keiya and NAKAZAWA Tsutomu (2024) Report on CEATEC 2023.

(受付：2023年11月14日)